



**本競技会にて樹立した記録は予選、決勝を問わず、(公財)日本水泳連盟 泳力検定の認定対象となっております。出場種目の記録が認定基準を満たし、認定証(認定バッジ付)の発行を希望する場合は「泳力検定デスク」にて手続きを行ってください。(最終ページの認定申請書を切り取ってご使用ください)**

#### 1. 泳力検定とは

泳力検定は、水泳の普及を目的とし、全国に統一された泳力基準を設定、履歴書や内申書等に記入できる公認資格として創設した制度です。検定は、「クロール」「背泳ぎ」「平泳ぎ」「バタフライ」「個人メドレー」の中から受検する級と泳法を選び、タイムを計測して泳力を判定します。内容は、年齢別・男女別に7級から1級の7段階に区分されており、泳法に違反しない泳ぎで定められた基準タイム以内に完泳することが条件になります。無理なく自分の、泳力に応じて日標を決めて、受検することができることから幼児・学童のジュニアから中高年まで幅広い年齢層の方々が挑戦しています。

#### 2. 泳力検定の特徴

全国に統一された日本水泳連盟泳力基準による級設定。

7歳から19歳までの1級基準については、水泳選手への登竜門としての位置づけとし日本水泳連盟資格級1級に準拠しており、20歳以上の1級基準については、マスターズ水泳大会の記録を参考に設定しています。

基礎から応用まで、泳力を段階的に判定できる級設定。

泳力検定の級は、1~7級に分かれており、各級は、泳力に応じて日標を設定し、ステップアップすることができるようになっています。25メートル完泳の泳力があれば7級から4級に挑戦し、3級で種目毎のターン(折り返し)技術の習得を踏まえた泳力の向上、2級・1級で4泳法を続けて確実に泳げるように設定しています。

生涯スポーツとしての水泳を意識した級設定。

泳力検定の各級は、年齢に応じた基準設定がされています。受検者の年齢や泳力に応じて、目標を自由に設定することができ、生涯スポーツとして幅広い年齢層の方々にも挑戦していただけます。

明確な検定基準と正確な泳力判定のための体制整備。

泳力検定は、明確な検定基準と正確な泳力判定をするために、日本体育協会及び日本水泳連盟に資格登録した「公認水泳指導者(水泳コーチ・水泳教師・スポーツ指導員)」を検定者としています。

#### 3. 泳力判定合否基準

別に定める泳力判定基準タイム以内で、かつ日本水泳連盟競泳競技規則に違反しない泳ぎであること。検定受検者の年齢区分は検定日当日の満年齢とし、「自由形泳法」はクロール泳法とします。

泳力判定基準タイムは、次ページをご覧ください。

#### 4. 合格者氏名の公表

合格者氏名は「月刊水泳(一部)」「日本水泳連盟ホームページ (<http://www.swim.or.jp>)」「朝日小学生新聞(一部)」「スイミングマガジン(一部)」に掲載されます。

本大会は2級(100m個人メドレー)3級(各種目50m)のみとなります。

# 見本

記録証

サイズ：A5(横148mm×縦210mm)

さあ、  
次の自己  
ベストへ。

記録証  
CERTIFICATE

殿

級 級 年齢区分

種目

記録 分 秒

あなたは本連盟の定めた泳力検定会において  
表記の記録で泳いだのでこれを証します

年 月 日

公益財団法人 日本水泳連盟  
会長 青木剛

泳力  
検定

公益財団法人 日本水泳連盟

## 認定バッジ

サイズ：横18.5mm×縦26.5mm



1級  
ゴールド



2級  
シルバー



3級  
ブロンズ



4級  
ブルー



5級  
エメラルドグリーン



6級  
ネイビーブルー



7級  
ホワイト